



うさぎとかめの通信 上越市立高田幼稚園

(園長室だより) 107周年
令和5年12月22日 第189号

HPのQRコード



「思い→体験→表現」は、幼児、児童、生徒に一貫する遊び学びの基本!

☆アイデアたくさん詰まった「わくわく発表会！」☆

12月15日には、久しぶりに入場制限なしで発表会を行うことができました。たくさんのお家の方からご来園いただきありがとうございました。ステージ幕の隙間からチラチラと覗く子供たちの姿から、お家の方に見ていただけるのをとても楽しみにしている様子がうかがえました。子供たちの気持ちは、わくわく全開です。「わくわく」の気持ちは、子供たち自身がとても楽しんでいるからこそ、沸いてくる気持ちです。

年少のもも組は、オペレッタに挑戦。でも普通のオペレッタとは違います。「3匹の子ブタ」を土台にしているのですが、その時にやりたい役をやる劇遊びです。担任の「今日は何回やる？」に、子供たちは「2回！」担任「2回でいいの？では、1回目を始めまーす」で幕が開きました。「今日はわらの家を作るブタちゃんの役」、「オオカミちゃんになる」など、「今日は、何役をしようかな？」と、わくわくして楽しみました。



年中のうめ組の子供たちは、大好きな昆虫やカエルをもとにお話を創作した劇でした。カエルの帽子は、作品展で作ったものを変身させて作ったり、カエルやザリガニ、タガメ、アメンボの動きを考えたりして劇の中で表現していました。好きな生き物のことだから、よく見て観察したり調べたりしています。みんなでどんな動きがいいのか？相談して作り上げた劇でした。自分たちで関わっているからこそ、どの

子も元気よく大きな声で表現していました。

年長のまつ組の「じごくのそうべえ～まつ組 Ver.～」は、いつも遊んでいた巨大迷路が「地獄の迷路」になり、「糞尿地獄だ!」「針の山地獄だ!」と遊びを変化させていたことから生まれた創作劇でした。お話の内容も動きもみんなで作って

きたからこそ、発表会2日前のちょっとだらけた感じの練習の後には、子供たち同士での話し合いが始まりました。言いたいことが言える、どうしたら良いのか伝えられるまつ組の話し合い。みんなの心が揺さぶられ、そしてまた一つにまとまった劇では、会場が笑いや感激に包まれました。

子供たちは、年齢に応じて、遊びの一環としてみんなで表現活動を楽しみ、アイディアを出し合い、作り上げてきました。その過程全てが、わくわくの連続だったと思います。

わくわくする心が動くからこそ、子供たちは大きく大きく成長しますね。



☆大町小の1年生との交流会☆

12月8日（金）に大町小学校の1年生から、交流会の招待を受け、まつ組のみんなで大町小学校に行ってきました。1年生は、まつ組の子1人に2人の付き添いスタッフがついて、教室のオープンスペースの「サニーランド」のお絵かきコーナー、折り紙コーナー、また、屋外のポニーのサニーちゃんや「サニーランド」など、まつ組の子供たちが行きたい場所に連れて行って一緒に楽しんでくれました。



子供たちは、今回で大手町小学校、大町小学校での2つの交流会を経験しました。この交流会を通して、〇〇小学校と言うことではなく、「小学校って楽しそう」「小学校へ行ったら、自分もやってみたいな」と、期待を大きく膨らませたようです。

1年で一番長い2学期には、雨の中の遠足、サツマイモや大根の収穫と調理、「うみがたり」へのバス遠足など、たくさんの体験や遊びがありました。そして、子供たちのたくさんの笑顔や成長が見られた2学期でした。これもひとえに送り出してくださる保護者の皆様のご協力のおかげです。ありがとうございました。

明日から、冬休みです。年末の大掃除や新年のあいさつ等、活躍できることがたくさんあります。そして、冬休みは日本の伝統行事等にもふれさせるよい機会です。どうぞ、ご家族おそろいでよいお年をお迎えください。